

表1 論文種別とその特徴ならびに査読評価基準

論文種別		A4版原稿枚数	本誌換算頁数	特徴	査読評価基準
原著論文	Original Article	21	14	論文の中で特に優れた研究論文。査読者と編集委員長との協議によって決定。先行研究をふまえた問題提起によって計画された実験から、独立変数と従属変数との間に明確な関数関係を見出し、理論的な考察を行った研究論文。前例がないという意味の独創性は必要としない。上記の条件を満たす系統的再現の実験も、関数関係が明確に示されていれば問題ない。その他の特徴は「論文」と同じ。	表2参照。
論文	Article	21	14	原著論文に基本的に同じ。主に、実験的行動分析学、応用行動分析学の実証的な研究が対象となるが、実験を伴わない理論的行動分析学の論文でも、先行研究をまとめ、新たな視点で理論的考察を行うことで、関数関係について新たな知見を提示していると判断できる場合は、これに該当する。	表2参照。
研究報告	Research Report	15	10	「新規性」と「萌芽性」がある論文。直接関連する先行研究がほとんどないような新しい研究において、参加者数、被験体数が不足していたり、手続きや結果に問題があったり、「原著論文」や「論文」として掲載するのは難しいが、「斬新さ」、「奇抜さ」、「面白さ」などを評価し、今後の展開が期待できる論文。従来、行動分析学ではあまり研究が進んでいない領域やトピックに取り組んだ研究。	表2参照。序論や考察は極端に簡略化し、方法と結果が明確に書かれていれば受理する。
実践報告	Practical Report	10.5	7	社会的に重要な問題の解決に行動分析学の知見を活用した実践を報告する論文。独立変数と従属変数の間の関数関係を明らかにすることが目的ではなく、既知の行動原理や行動修正の手続きの効果を確認し、当該の問題解決に役立つことを示すことが目的の研究。どのような行動問題(対象者や組織)にどのような介入手続きが、どのくらい有効で、社会的・経済的妥当性(関連する人たちの評価やコストなど)がどの程度期待できるかを具体的に示すことで、同様の行動問題に取り組む実践家に有用な情報を提供しようとする論文。	介入手続きが再現可能なように具体的にわかりやすく記述されていること、従属変数が数量的に測定されていること、介入の効果が十分(effect size)であることが明らかで、社会的妥当性が検証されていること、介入手続きの前後におけるデータの比較(例: ABデザイン)しかなされておらず、また、独立した観察者間の一致率を算出することなどによって独立変数と従属変数の信頼性が確保されていなくても、介入手続きの効果が明確で、十分に大きく、社会的妥当性が示されており、手続きが再現可能で、行動分析学の知見に基づいた考察がなされていれば掲載可とする。
テクニカルノート	Technical Note	10.5	7	実験の手続きや装置、刺激の作成方法や提示方法、データの分析手法などについて行った工夫をまとめ、再利用できる形で情報を提供する論文。	研究遂行に関わる技術的な情報を再利用可能な形で、明確に正確に提示しているかどうかを問題とする。
展望	Review	30	20	ある主題について先行研究をまとめ、現在の状況、主要な成果、問題や今後の課題について整理し、解説した論文。	先行研究の数が十分で、現状の成果と問題が明確に提起されているかどうか、今後の課題が明確に展望されているかどうかを問題にする。
討論	Discussion	6	4	ある主題や特定の論文について批評したり(コメント論文)、批評に応じたり(リプライ論文)する論文。	コメント論文の場合、主題や特定論文についての批評が明確であるかどうかを問題とする。リプライ論文の場合、コメント論文の批評に明確に応えているかどうかを問題とする。
解説	Tutorial	30	20	ある主題について初学者向けにわかりやすく解説する、教科書的な論文。	毎号、1~2のトピックについて原稿執筆を依頼することを検討。依頼論文なので、基本的には誤字脱字などを修正する形式査読。
その他	Others			年次大会や公開講座におけるシンポジウムや講演の収録(テープ起こした原稿を著者らが編集して投稿するもの)、追悼文など、その他、編集委員長及び編集委員会執行部が必要かつ妥当と判断した論文。	基本的には誤字脱字などを修正する形式査読。